




# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 宮城県立拓桃支援学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・ <b>V</b> （複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童生徒 43名（小学部27名，中学部16名） ※在籍の異動が多いため，宮城MAXとの交流会当日の人数を記載しました。
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 保健体育・体育 ） ② 行事名（ 運動会 ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラスポーツ（ボッチャ，車いすバスケットボール）の体験や学習を通して，スポーツの楽しさを味わい，生涯にわたってスポーツに関わる態度を養う。</li> <li>・パラアスリートとの交流を通して，競技の楽しさを味わうとともに，その生き方や考え方を聞き，障害がある本校の児童生徒の自己肯定感を高める一助とする。</li> </ul>
5 取組内容	<p>(1) ボッチャ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会の全校競技として実施した。</li> <li>・東京2020パラリンピック競技紹介動画を視聴した。</li> <li>・ルールを理解し，作戦を考えながらゲームを行った。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>

(2) 車いすバスケットボール (宮城MAX交流会)

- 宮城MAX (車いすバスケットボールクラブチーム) の選手2名に学校を訪問していただいた。
- バスケットボールの交流の他、選手の障害受容や車いすバスケットボールとの出会いなど、生き方や考え方を聞く交流も行った。



6 主な成果

(1) ボッチャ

- ボッチャのルールや特性は、入院・治療中の本校児童生徒にとって適しており、障害の程度に関わらず楽しく活動ができた。
- ルールを変更 (簡略化) することで、小学部児童や知的障害のある児童生徒にも理解しやすくなり、自分たちで得点や勝敗を判断できるようになった。
- 児童生徒アンケートより。  
「パラリンピックでもやる競技を拓桃バージョンにアレンジし、みんなが楽しむことができたと思います。」

(2) 車いすバスケットボール (宮城MAX交流会)

- 車椅子でスポーツをする選手たちを見て、そのプレイに魅了され児童生徒のスポーツに対する意識の変化が見られた。
- 児童生徒がシュートをする場面では、選手にアドバイスをもらいながら夢中になって意欲的に取り組む様子が見られた。
- 訪問していただいた選手の一人が、本校の卒業生であり、車椅子での現在の生活の話聞き、児童生徒は将来への夢や希望を持つことができた。
- 書字、作文に苦手意識を持っている児童が「(選手に) お礼の手紙を書きたい。」と自ら志願するなど、多方面にわたって良い影響が見られた。
- 児童生徒アンケートより。  
「車いすバスケの試合を見に行きたいと思いました。」  
「シュートが7回入ってうれしかったです。」  
「選手たちにアドバイスをもらいながら、シュートを決めることができうれしかったです。」  
「将来、車の運転のことを心配していたけど、選手の話聞いて、ほっとしました。」  
「『障害があったからこそ視野が広がった』と聞いて、障害

	を前向きにとらえて、自分と向き合っていることがすごいと思いました。」
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>(1) ボッチャ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランプ(勾配具)を購入し、障害が重い児童生徒や治療中の児童生徒が使用した。今まで使用していた雨どいよりも安定しており、方向やスピードの調整が容易になった。</li> <li>・在籍する小学1年生から中学3年生までの児童生徒が、運動会では縦割りのチームで試合をするため、ルールを変更してゲームの進行、得点を分かりやすくした。</li> </ul> <p>(2) 車いすバスケットボール(宮城MAX交流会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボールの交流と自立活動的な交流(話を聞く会)の2部構成にした。より深く障害者スポーツや障害者の生き方・考え方に触れることができた。</li> <li>・自立活動的な交流(話を聞く会)では、児童生徒から質問するという形式で行った。児童生徒の主体的な取組が見られた。</li> </ul>
8主な課題等	<p>(1) ボッチャ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動量を確保するためには、本校の備品だけでは足りなかった。そのため、外部施設より借用したが、借用期間が短く、十分な活用ができなかった。</li> </ul> <p>(2) 車いすバスケットボール(宮城MAX交流会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城MAXとの交流を継続していくための予算の確保が課題である。</li> <li>・障害のある選手たちがどのように日常の生活を聞く際に、動画や写真があると、さらにイメージが持ちやすくなったと感じた。事前に依頼することができなかった。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<p>(1) ボッチャ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度以降も運動会の全校競技として実施する予定である。</li> <li>・児童生徒の実態に応じて、正式なルールでの試合も経験させていきたい。</li> </ul> <p>(2) 車いすバスケットボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城MAXとの交流は、毎年実施することは難しいが、間接的な交流も含めて継続していきたい。</li> </ul>